

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている。

すなわち、公共投資は、横這い圏内の動きとなっている。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、下げ止まっている。個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられているものの、なお弱い動きが続いている。生産は、回復している。雇用情勢をみると、労働需給は、引き締まりつつある。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく。

2. 最終需要の動向

公共投資は、横這い圏内の動きとなっている。

公共工事請負金額は、前年をやや下回っている。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の21年度の設備投資は、新型コロナウイルス感染症の影響から慎重な投資計画となっている先がみられるものの、一部先で需要獲得を企図した戦略投資がみられ、全体では前年を上回る計画となっている。

ただし、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響などを背景とする不確実性が高いことから、今後の投資実行状況を注視していく必要がある。

住宅投資は、下げ止まっている。

新設住宅着工戸数は、持家、貸家ともに前年を下回り、全体では前年を下回った。

個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられているものの、なお弱い動きが続いている。

主要小売店の売上高は、内食需要から堅調となっている。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数）は、普通・小型

乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体では前年を下回った。家電販売は、一服感がみられている。

旅行・観光関連をみると、市内ホテルの宿泊人数、主要温泉地の宿泊人数は、一部に持ち直しの動きがみられているものの、引き続き厳しい状況にあるほか、とちぎ帯広空港の乗降客数は、再び低調に推移しているとみられる。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、回復している。

生乳生産量は、増加しているほか、乳製品生産量は、生乳生産量の増加を背景に、高水準で推移している。

製材品生産量は、持ち直している。

雇用情勢をみると、労働需給は、引き締まりつつある。

有効求人倍率（常用）は、前年を下回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

1月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、皆無であった。

4. 金融情勢

実質預金残高は、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、法人向けを中心に前年を上回っている。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

以 上